



# 工夫からできた やさしさ

大阪府立工芸高等学校 3年

きのした ここな  
木下 倅々那

私が今回調査したのは、あべのハルカスです。人の行き交いの多い天王寺駅のすぐそばにあるあべのハルカスは、色々な世代の人が利用します。

私が見つけたやさしさは、バリアフリーエレベーターです。あべのハルカスはウィング館とタワー館の二つに分かれていて、その二つの館を繋げるエスカレーターがあります。そこで、車いすの方などはどうするのか疑問に感じたため調査すると、そのすぐ近くに「車いす、ベビーカー優先」と書かれたバリアフリーエレベーターがありました。これは、その場所だけでなく、全てのフロアの全てのエレベーター・エスカレーターの周辺に設置されており、車いすの方だけでなく、足の不自由な方やベビーカーを押した子ども連れの方専用と書かれた、協力を促す看板も配置されていました。

次に車いすの方に向けたバリアフリートイレを探していると、バリアフリー以外のやさしさも発見しました。それは、子ども用品を扱うフロアにあるトイレです。ベビーカーを使用する子ども連れの方が利用するこのフロアのトイレは、他のどのトイレよりも幅が広く、子ども用トイレの設置など、親子どちら

も利用しやすいための工夫がされていました。バリアフリートイレも同様に、中に子ども用トイレが用意されており、全ての方が利用しやすいよう隅々まで工夫が凝らされていました。

また、天王寺区やあべのハルカスは外国人観光客の方も多いため、フロア案内には6言語に対応したフロア案内のQRコードも貼られており、海外の方も使用しやすいように作られていました。

普段の生活の中でまちのやさしさを意識しながら生活する人はあまり多くないと思います。しかし、まちのやさしさに関係のない人は誰もいません。障がい者の方や足の不自由な方、子ども連れの方だけではなく、私達や海外の方など全ての人に向けてまちのやさしさが働いています。やさしさは施設や設備だけではなく、声かけや困っている人を手助けするなど、一人ひとりが作り出すこともできるため、それぞれが意識することで今よりもやさしさに溢れたまちにできるのだらうと思いました。



写真1



写真2



写真3

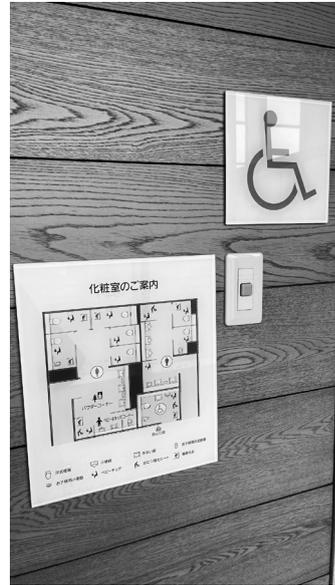


写真4



写真5



写真6